

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2	選択
担当教員			
李 桓 ほか			
3年次	工学部	集中	有
添付ファイル			
ルーブリック_建築学海外研修.pdf			

授業概要	<p>海外の建築を約7～10日間かけて見学し、自らの視野を広げ、建築の幅の広さと深さを研修を通して知る。研修地は、西洋建築史に登場する建物、著名建築家による近現代建築、まちづくりで近年話題となっている地を選ぶ。研修後は、現地見学の経験を通じて、海外と国内の建築の差異、建築をどうしたら街の資産として熟成できるか、まちづくりは何を大切にしたらよいか、今後の建築界やまちづくりをどうリードしていったらよいか考える。成果として、冊子を作成し、報告会などを行う。</p> <p>【学位授与の方針・教育課程編成実施の方針の対応する教育目標(配当年次)】 【建1】 【建2.1】 【建2.2】 【建3.1】 【建4.1】 【建4.2】 【建5.2】 入学年の履修ガイドを参照すること。 また、系統図も参照すること。</p>
授業計画	<p>40320 建築学海外研修</p> <p>受講者には、以下の作業を義務付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約10日間程度の海外研修旅行を立案・企画する。 ・海外研修旅行に参加する。 ・事前および事後レポートの作成・提出 ・下級生を対象とした報告会の実施 <p>ちなみに、2017年度はフィンランド・スウェーデン10日間、2018年度はイタリア・フランス10日間、2019年度はイタリア9日間、2023年度はシンガポール6日間、2024年度は韓国5日間の研修旅行を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海外研修地の決定、班分け。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 2. 見学建物・建築家と旅程の立案。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 3. 旅行安全確認。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 4. 現地見学1日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 5. 現地見学2日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 6. 現地見学3日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 7. 現地見学4日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 8. 現地見学5日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 9. 現地見学6日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 10. 現地見学7日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 11. 現地見学8日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 12. 現地見学9日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 13. 現地見学10日目。 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと 14. レポート作成 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと

	<p>15. 発表 【自己学習】 「予習・復習」の欄の指示や授業中の指示に従って行うこと</p>
授業形態	<p>約7～10日間の海外研修旅行と事前・事後の学習およびプレゼンテーション（冊子作成、報告会開催等）。 【アクティブラーニング】 あり 【情報機器利用】 特に無し ただし、参考文献をPDFなどで配布する場合がある。詳細は授業にて説明する。 【成果物等の提出についての学生へのフィードバック】 冊子作成や発表会開催に向け、補足説明などを通じてサポートする。 【教育方法】 現地見学が有意義なものになるように、事前研修は、系統立てて学生自身が知識を積み重ねられるように学習する。見学中は、安全第一に心がける。事後は、見学した内容が身に付くように、レポート・パワーポイント作成作業を通じて、学生の体験が経験につながるように学習する。 【特別な事情により対面授業が実施できない場合の形態】 Google classroomを通じて指示をする。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の建築・都市・町並みについて、現地での研修を通し、自らの視野を広げる。 ・研修中は、海外と国内の建築の差異、建築やまちづくりの先進地の取り組み方についての視点を養う。 ・成果として、冊子を作成し、報告会などを行う。
評価方法	<p>研修旅行への参加と研修態度60点、事前・事後レポートおよび報告会のプレゼンテーション40点の計100点満点で評価する。</p>
評価基準	<p>評定は、S, A, B, C, Dの5種類をもってこれを表し、Sは90点から100点、Aは80点から89点、Bは70点から79点、Cは60点から69点、Dは59点以下とし、S, A, B, Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>詳細はルーブリックを参照すること。</p>
教科書・参考書	<p>教科書はなし。参考書は事前・事後レポート作成時に紹介する。</p>
履修条件	<p>建築学科3年生以上を原則とする。人数に余裕がある場合はほかの学年の学生の参加も認める。 【前提となる授業科目】 西洋建築史 系統図を必ず参照すること。</p>
履修上の注意	<p>相応の経費が掛かるので、参加希望の場合は事前に手当てすること。 団体行動としての規律に従う意思のあること。 系統図を必ず参照すること。</p>
予習・復習	<p>予習：研修旅行の計画作成段階での資料収集、見学建物の十分な下調べ・文献の読み込み、海外事情の情報収集。 復習：見学建物を現地で自分なりの切り口でノートなどにまとめ、帰国後、冊子や報告会に反映させる。</p>
オフィスアワー	<p>随時指示する。 掲示やAA システムの情報も参照すること。</p>
備考・メッセージ	<p>海外研修を実施するかどうかは、海外の安全事情・参加希望者数などを考慮して決める</p>